

ネイティブたちが作成した文例から学ぶ  
英語の文法構文150

田中茂範 (著)

# no matter what

(たとえどんなに……でも)



no matter what.mp3

## ●調査データ

個人使用率 (%)		
ビジネスレター	くだけた会話	改まった会話
33	98	52



I'm going, *no matter what* you say.  
君が何といってもぼくは行くつもりだ。

## ●サンプル例文

- ① *No matter what* you say, I'm still going to go on the trip.  
(君が何といってもやっぱりぼくは旅行に行くつもりだ)
- ② *No matter what* you say, they'll never believe you.  
(君がどういっても彼らは君を信じないだろう)
- ③ *No matter what* you say, we're going to get married.  
(君が何をいってもぼくたちは結婚するつもりだ)
- ④ *No matter what* you say, I won't change my mind.  
(君が何といってもぼくの決心は変わらないよ)
- ⑤ I love her, *no matter what* you say.  
(君が何といってもぼくは彼女を愛してるんだ)
- ⑥ I'm still going to marry her, *no matter what* you say.  
(君が何といってもぼくは彼女と結婚するつもりだ)
- ⑦ I'll marry him, Mom, *no matter what* you say.  
(ママ、何といわれたって、私、彼と結婚するつもりよ)
- ⑧ I'm going to invite him to the party, *no matter what* you say.  
(あなたが何といっても彼をパーティーに招待するわ)

- [1] 「たとえ何／誰でも」といいたいときに、no matter what(whom) ...、whatever ...、whoever ... という表現を用いることができる。このうち、no matter whatはかなり口語的であるのに対し、他のふたつは比較的改まった「場」でも使われることが多いようだ。
- [2] 例文中で、主節の前に置かれるケースが74%で、後に置かれるケースよりだいぶ多い。アンケート例文に影響を受けることなく、文頭の位置が好まれる傾向がある。no matter what you say, 名詞句 + ... still と still を伴うのは13例(26%)で、主節が否定辞を含むケースは14例(28%)みられる。
- [3] 主節がbe going toをとるものは12例、willをとるものが16例、be -ingをとるものが5例みられ、全部合わせると未来指向の主節が全体の66%になる。この点は、no matter what ... が「(どんなことがあっても)……するつもりだ、といった話者の強い意志」を表すということの表れであろう。また、No matter what you say, I still think ... のパターンも6例(12%)あり、プロトタイプ的使い方として無視できない。

## オリジナルな例文

---

---

---